

令和5年度

各務原市埋蔵文化財調査センター企画展

石器の魅力

大集合！各務原市の石器



1. 石器とは何か

石器とは、人類が初めて使った道具の一つで、石を加工して作られました。日本では、旧石器時代・縄文時代・弥生時代に、利器や調理具として石器が用いました。

石鏃や石斧など、特定の形に当てはまるものを定形石器（ツール）といいます。それは、誰が見ても鏃や斧と分かる形をしています。その他、石器を作るときの芯材である石核（コア）、素材として剥ぎ取った剥片（フレイク）、細部加工をしたときに生じた碎片（チップ）など、石器作りに関わった全ての石材・石片を総称して石器といいます（写真1）。



写真1 下呂石の石器 (八龍遺跡B地区)

2. 石器への関心と考古学

平安時代になると、先人が石器を使っていたことは、すっかり忘れ去られていたようです。

『続日本後記』(869年)には、「激しい雷雨の後に海岸で石器が多数見つかり、見慣れないものであつたため朝廷に献上したところ、異変の兆候だと困るということで、神仏に祈るよう命じた」と記されています。

石器は神が使ったもので、雷雨によつて天から降ってきたと考えられていたのです。それは、石器の呼び方にも表れており、例えば、石斧は雷斧と言われています。

江戸時代には、石器は古物や珍品

つまり、見慣れないものであつたため朝廷に献上したところ、異変の兆候だと困るということで、神仏に祈るよう命じた」と記されています。

石器は神が使ったもので、雷雨によつて天から降ってきたと考えられていたのです。それは、石器の呼び方にも表れており、例えば、石斧は雷斧と言われています。

江戸時代には、石器は古物や珍品つまり、見慣れないものであつたため朝廷に献上したところ、異変の兆候だと困るということで、神仏に祈るよう命じた」と記されています。

モースが、東京都内で大森貝塚の発掘調査を行つたことを契機に始まります。考古学は、文字で記録されていない歴史を、石器や土器などの遺物によって研究する学問です。

考古学によって、日本の石器時代は明らかになっていきました。

3. 石器の機能美

天然の石とは違い、人工品である石器は機能美を持っています。それは、物を切ったり刺したりする刃が作り出され、意味を持った無駄のない姿に洗練されていること、そしてガラスのような石材が選ばれ、透明感のある美しい色艶をしていることです（写真3）。



写真2 各務原市内から出土した石鏃など



写真3 透明感のある石器

第2章 石器への情熱

1. 大切に保管された石器

一昔前は、畑を耕すと石器が出てくることがありました。畑の所有者は石器を大切に保管し、綺麗に額装された石器は玄関に飾られました。また、社会科の授業をきっかけに、石器に強い関心を持つ少年たちがいました。考古学という学問に触れ、遺跡を回つて石器を拾い集めた彼らを「考古少年」と呼びます。

考古少年が集めた石器は、貴重な歴史資料として『各務原市史』などに掲載され、また、その踏査成果は、遺跡地図の制作に反映されました。こうした人々が収集し、大切に保管してきた石器のコレクションを、収集した皆さんとのコメントとともにご紹介します。

2. 五島四一 Collection

昭和20年代、畑の耕作中に見つけたことが始まりでした。石鏃や石斧が多く見つかり、額に入れて保管していました。現在でも額装された石鏃は玄関に入つてすぐ見える壁に飾られています（写真4）。

4. 丹羽松治郎 Collection

戦後、鵜沼地区の開墾中に石鏃や打製石斧を見つけました。この辺りは笹の根が広がる雑草地帯で、石器が多く残っていました。元々、古物に興味をもっており、石器を見つけて集めるようになりました。収集した石器は額に入れて保管し、家の中に飾っていました（写真6・7・8）。



写真4 五島四一さん収集の石鏃



写真5 五島島夫さん収集の石鏃



写真6 丹羽さん収集の打製石斧1



写真7 丹羽さん収集の打製石斧2



写真8 丹羽さん収集の石鏃・石匙 (下段は海外のものか)

第1章 人々を魅了する石器

1. 石器とは何か

石器とは、人類が初めて使った道具の一つで、石を加工して作られました。日本では、旧石器時代・縄文時代・弥生時代に、利器や調理具として石器が用いました。

石器を作るときの芯材である石核（コア）、素材として剥ぎ取った剥片（フレイク）、細部加工をしたときに生じた碎片（チップ）など、石器作りに関わった全ての石材・石片を総称して石器といいます（写真1）。

石器は神が使ったもので、雷雨によつて天から降ってきたと考えられていたのです。それは、石器の呼び方にも表れており、例えば、石斧は雷斧と言われています。

江戸時代には、石器は古物や珍品

として愛好家の目に止まりました（写真2）。収集して絵図にしたり、展覧会を行つたり、取引されたりしました。この時代に、ようやく石器は古い時代に作られた人工品であると認識されました。しかし、石器を調べて日本の歴史を研究しようとする学問へは、なかなか結び付いていませんでした。

日本の考古学は、明治10年（1877）、アメリカ人のエドワード・S・

5. 唐井孝司 Collection

私が小学生のころ、炉畠遺跡の近くで運よく1個の石鎌を見つけました。「これを昔、原始人が作つたんだ」と思ったのと同時に、昔の人と一つにつながつたような不思議な感覚になりました。それからというもの、学校から帰ると毎日石器探しに出かけるようになりました。

大人になり、いつしかその趣味から離っていました。子供を幼稚園に迎えに行ったある日、畑の端に旧石器時代のナイフ形石器と細石刃核が落ちていました。

今でも石器を見つけるたびに、小学生のときと同じ「昔の人と一つにつながつたような不思議な感覚」がよみがえってきます。



写真9 唐井さん収集のナイフ形石器など

6. 黒川勝海 Collection

私が考古学と出会ったのは、小学生のとき。父と鵜沼を散歩中、須恵器の欠片を見つけました。後日、教科書で見覚えのある打製石器を見つけました。

須恵器の時代よりも前に、鵜沼に人が住んでいた。「彼らは何を生業にして生きていたんだろう」。より専門的に学びたい気持ちが高まり、大学で日本考古学を専攻。東海地方の石器石材の地域性について研究を深めました。

『各務原の石器』は、私の青春を彩ってくれた宝物。ぜひ多くの方にご覧いただき、各務原が太古より住みやすい街であつたことを感じていただけたら幸いです。



写真10 黒川さん収集の多量の打製石斧

7. 福手一義 Collection

私は、平成26年から集めるようになりました。きっかけは、市歴史民俗資料館の館長(当時)から石器の話を聞いて、興味を持ったことです。煙の中で初めて石鎌を見つけ、館をもらい、その日は嬉しくて、お酒を飲みながら石器を眺めました。

以来、石鎌や石錐など、小さな石器を中心収集しています。今では、難しい石器も、見極めができるようになります。石器の石材は下呂石が多いですが、チャートもあります。黒曜石は非常に少ないため、見つけないと感動します。

私の集めた石器が、各務原市の歴史研究に役立つと嬉しいです。



写真11 福手さん収集の石鎌や石錐など

8. 西村勝広 Collection

中学1年生のときに、学校の遠足で炉畠遺跡公園を見学しました。このとき、土の中に原始時代の香りを感じました。また、同年に老洞古窯跡や重竹遺跡の発掘調査現場を見学、入会などが重なり、考古学が大好きになりました。

その後、憧れの大学へ進学し、考古学を専攻しました。今は、市役所で文化財の仕事に携わっています。



写真12 西村さん収集のナイフ形石器など

第3章 発掘された石器

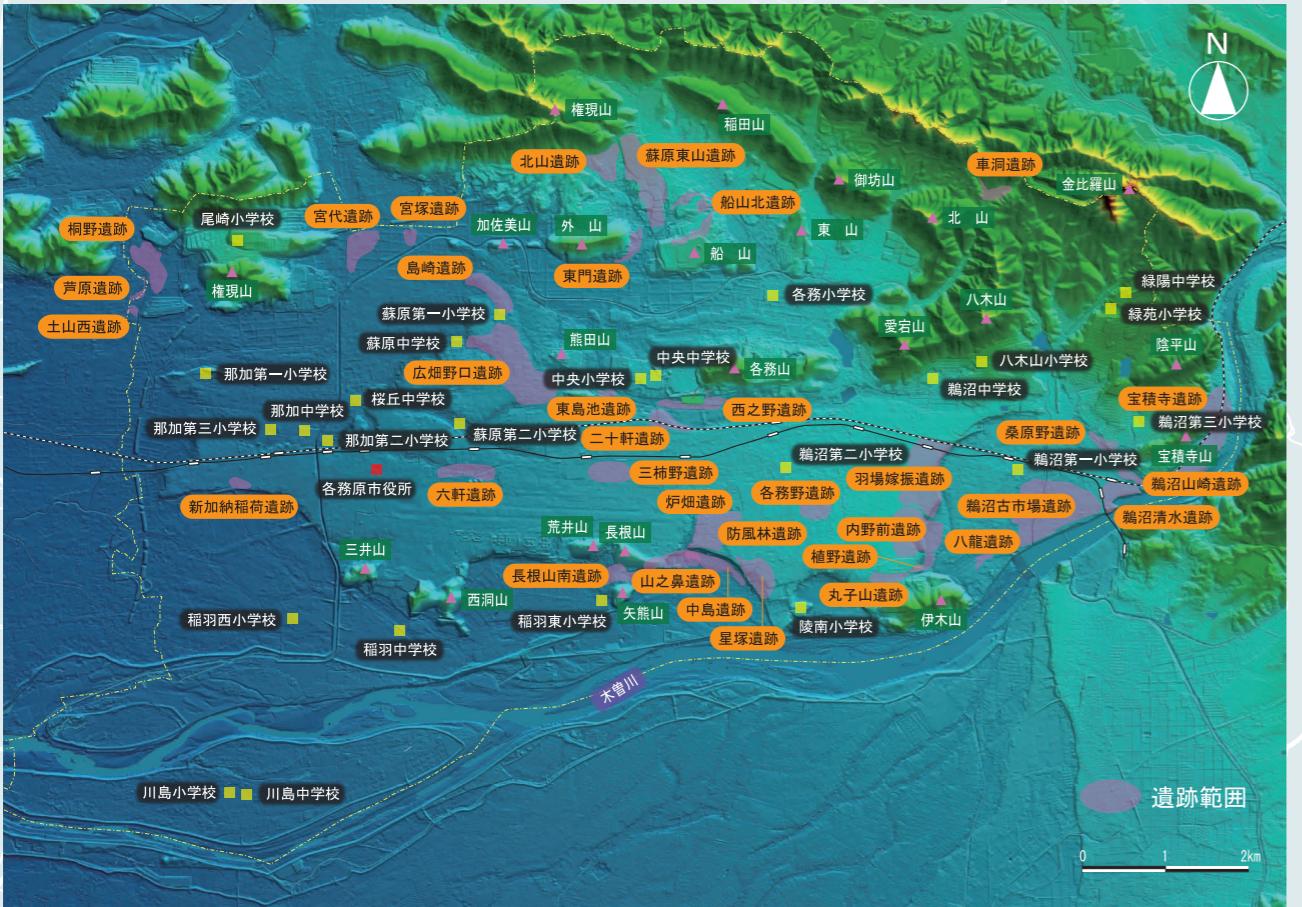


図1 各務原市内の石器を出土する遺跡（旧石器時代・縄文時代・弥生時代）

1. 各務原市は石器の宝庫

各務原市内では、35カ所の遺跡から石器が出土しています（図1）。各務原台地は不毛の地と言われます。しかし、石器を使った狩猟台地を降りて周りの低い地形へ移動します。しかし、石器を使つた狩猟は、台地の上でも続いていたことがあります。

明治9年の刊行物『日本産物志』（伊藤圭介著）には、興味深いことが書かれています。江戸時代の奇石収集家で知られる木内石亭の文を引用して、「美濃の山野や田畠には石鎌が多く、愛好家が57人いて、皆が200～300個を持つている。石鎌は、美濃国の名産として誇れる」と記されています。

また、石亭は美濃へ何度も訪れ、終日広野（各務原）を探して、20～30個の石鎌を見つけているようです。路傍の茶店では、拾い集めた石鎌を売っている人もいたそうです。

COLUMN III 石器にちなんだ地名、星塚と星糞

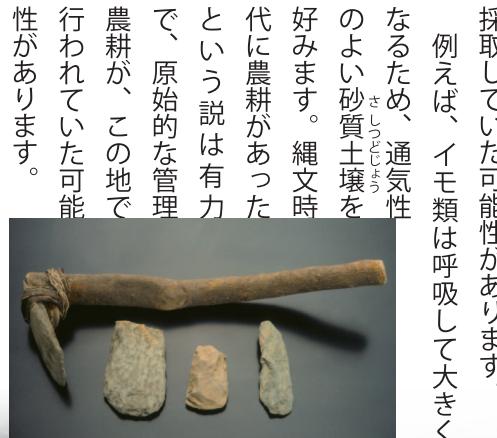
各務原市の鵜沼朝日町地内に、星塚という古地名があります。そのまま読むと「お星さまのお墓」という意味になりますが、星とは石鎌のことと思われます。お星さまのようにキラキラ光る石鎌が、土の中から出てくる場所という意味が、地名に込められていると考えられます。

同じような例として、長野県の霧ヶ峰高原に星糞峠という地名があります。星の糞とは、星のように輝く黒曜石の欠片という意味です。この峠は、黒曜石の原産地であるため、一帯に数えきれないほど黒曜石の欠片が落ちていたことから生まれた地名です。

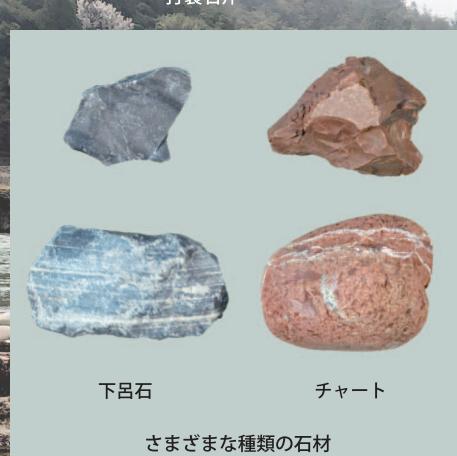
第5章 各務原市に石器が多い理由



市内出土の多量の石鏃



打製石斧



さまざまな種類の石材

令和5年度
各務原市埋蔵文化財調査センター企画展
石器の魅力
♪大集合！各務原市の石器へ

会期 令和5年7月29日（土）～8月27日（日）

会場 各務原市立中央図書館3階 展示室A

主催 各務原市教育委員会

1. 各務原台地の石鏃

石鏃が多く出土する各務原台地は、稻作を始めた弥生時代以降、水田に適さない土地であったことから人が離れ、その後、長い時代にわたって野原のままでした。そのため、各務野や各務ヶ原と呼ばれました。

ところが、狩猟と採集を中心だった旧石器時代や縄文時代のころには、例えば炉畠遺跡の存在から分かることのように、台地上に人が暮りしていました。草原のような環境だったと聽われますが、そこにはキジや野ウサギなどの小動物が豊富に生息していました。彼らは矢を放つて盛んに狩猟していたのだと考えられます。

この土地で、なぜ土を掘ったのでしょか。堅穴住居を掘るために、これほどの量の石斧は必要ありません。と考えられるにとば、田舎生活にとつてなくてはならないもの、つまり食料の獲得に関わったところなのです。低位段丘という砂地の土地に、野生で育った野菜があり、収穫と皿生のバランスを取りながら計画的に採取していた可能性があります。

例えば、イモ類は呼吸して大きくなるため、通気性のよい砂質土壤を好みます。縄文時代に農耕があったという説は有力で、原始的な管理農耕が、この地で行われていた可能性があります。

2. 鵜沼低位段丘面の打製石斧

鵜沼の低位段丘面（鵜沼真名越町、鵜沼小伊木町など）では、数えきれない量の打製石斧が出土します。これらは主に土掘具で、柄に装着して鍬や鋤、鎌、スコップのような役割を果たしたものと考えられます。

この土地で、なぜ土を掘ったのでしょうか。堅穴住居を掘るために、木曽川流域で入手できる石は、上流から運ばれた、砂岩・泥岩・チャート・安山岩・花崗岩・下呂石・蛇紋岩などがあります。

名務原市に石器が多い理由は、豊富な石材を入手しやすく、石器作りにふさわしい環境が整っていたからではないでしょうか。

3. 木曽川の豊富な石材

石器の石材は、主に木曽川の川原で採取されたと考えられます。

木曽川は、源が長野県木曽郡木祖村の鉢盛山で、深谷を中山道に沿つて南南西に下つて岐阜県に入り、飛騨川などと合流し、各務原市で濃尾平野に出て南西に流下しています。

木曽川流域で入手できる石は、上流から運ばれた、砂岩・泥岩・チャート・安山岩・花崗岩・下呂石・蛇紋岩などがあります。

名務原市に石器が多い理由は、豊富な石材を入手しやすく、石器作りにふさわしい環境が整っていたからではないでしょうか。